

平成18 年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム選定取組の概要及び選定理由

大 学 等 名	中部学院大学短期大学部	整理番号	5153
テーマ番号	5	テーマ名	実践的総合キャリア教育の推進
取 組 名 称	専門性と産業への理解を有する地域人の育成 - 地域での就業・創業に魅力を感じる体験型教育カリキュラムの開発 -		
取 組 担 当 者 名	中川 雅人		
(取組の概要)			
<p>客足が遠のく商店街には、全国に商品を販売したいというニーズがある。また、安価な輸入品に押され気味の企業には、消費者へ直接販売したいというニーズがある。このようなサービスの高度化・情報化へのニーズに反して、それに対応できる電子商取引の知識・技術を持った人材の育成は遅れている。</p> <p>このような需給の不均衡を放置しておけば、若年者の雇用問題(ニート・失業・離職)に発展しかねない。また、知識と技術の向上を図らなければ、単純労働と知的労働に二極化する格差社会で学生が弱者となりかねない。</p> <p>本取組では、電子商取引教育を中心に地域産業への理解や創業に関する知識を組み合わせながら、専門性と社会との関係を理解した地域人の育成を目指す。そのために、資格取得支援や柔軟な単位認定制度を用いて学生のキャリアアップを支援する。これらを通じて、真に必要とされ、働くことに喜びを見出し、地域で活躍できる人材の育成を目指すものである。</p>			
(選定理由)			
<p>「地域人」の育成、創業意欲の喚起などを目指して、地元企業の電子商取引を学生がサポートする取組を中心に、多彩なキャリア教育を展開している点は高く評価されます。</p> <p>学生と実社会との関わりを通じた教育は他にも多くの例が見られますが、この取組では「現場とキャンパスを行き来して」というキーワードのもとにその思想を徹底し、学生が現実の商取引にまで関与するとか、チームティーチングの導入、アルバイトや課外取得資格の単位化など意欲的な試みを実践しているところに、他の範とするものがあります。特に「関の刃物」の電子商取引は、現時点ではまだ構想段階のようですが、B2C ビジネスモデルの典型例としても、地域産業の活性化という面からも優れた着想といえます。ぜひ着実に実行に移され、この種の試みの模範的成功例を示されるよう期待します。</p> <p>しかしながら、学外の実践的教育と学内の教科教育との有機的な関連付けを含めたキャリア教育の全体像や、その推進体制がやや不鮮明であり、評価体制の計画もまだ具体性に欠けるようで、これらについて一層の充実が望まれます。またアルバイトや課外取得資格の単位化には、教育としての本質を違えぬよう慎重な検討が必要です。</p> <p>電子商取引にせよ創業にせよ、それに伴うビジネスリスクについても十分な教育を施し、学生が安易な気持ちで取り組むことを防ぐべく、万全の配慮を払われるよう望みます。</p>			